

航空機戦闘報告

秘密

I. 概括

(a) 報告部隊 第83飛行群 (b) 基地 米国軍艦エセックス (c) 報告番号 _____
 (d) 発進: 年月日 1945年8月13日 時刻(地方標準時) 5時55分(日本標準時) (区域): 緯度 35度17分 経度 143度16分
 (e) 任務 東京芝浦電気に対する攻撃 (f) 帰投時刻 10時13分(日本標準時) (区域) _____

II. 本報告によるわが機の公式装備

型 式 (a)	隊 群 (b)	数			搭載爆弾と魚雷 (一機当たり) (f)	装着信管 (g)
		発進 (c)	交戦機 (d)	攻撃目標 (e)		
V6F-5	第83戦闘機隊	4	0	4	通常爆弾 1000ポンド1発	1000ポンド 頭部:103A1型: .1 尾部:102A2型: .025
F4U-1D	第83戦闘爆撃機隊	8	0	5	通常爆弾 1000ポンド1発	250ポンド 頭部:103A1型: .1 尾部:100A2型: .025
SB2C-4E	第83爆撃機隊	12	0	12	8機-通常爆弾1000ポンド1発 ;通常爆弾250ポンド1発 4機-通常爆弾1000ポンド1発	2000ポンド 頭部:102a1型: .1 尾部:102A2型: .025
TBM-3	第83雷撃機隊	9	0	9	通常爆弾2000ポンド1発	

III. 本作戰に従事した他の合衆国機または連合機

型 式	隊 群	数	基 地	型 式	隊 群	数	基 地
F6F-5	第34戦闘機隊	8	米国軍艦モントレイ	TBM-3	第47雷撃隊	9	米国軍艦パターン
TBM-3	第34雷撃隊	9	米国軍艦モントレイ				
F6F-5	第47戦闘機隊	8	米国軍艦パターン				

IV. 発見または交戦した敵機 (IIにのみ記載されたわが機によるもの)

(a) 型式	(b) 発見数	(c) わが交戦機数	(d) 遭遇時刻	(e) 遭遇位置	(f) 搭載爆弾、魚雷、 備砲	(g) 迷彩と記号
なし			(区 域)			

(h) 明白な敵の任務 _____

(i) 雲の中で遭遇したか? _____ もしそうなら、雲状を記述せよ _____
(はい、いいえ) (フィート、型と1/10範囲を基礎に)

(j) 時間帯と太陽または月の光度 _____ (k) 透視距離 _____
(夜間、明るいう。日中、曇り空。等) (マイル)

V. 空中で撃墜または損害を与えた敵機 (II にのみ記載されたわが機によるもの)

(a) 敵機型式	(b) 撃墜または損害を与えたもの				(c) 攻撃場所、角度	(d) 認められた損害
	航空機型式	隊群	パイロットまたは射手	使用機銃		
なし						

VI. わが機の戦闘及び作戦上の損失または損害 (II にのみ記載されたわが機によるもの)

(a) わが機の型式	(b) 隊群	(c) 原因：敵機形式、 銃砲型式、または作戦上の原因	(d) 攻撃された場所、角度（外装、自動閉鎖 式油槽、攻撃された装備を記せ）	(e) 損失または損害の程度（撃墜され た機の通し番号を記せ）
1 SB2C-4E	第83爆撃機隊	作戦上：防御網を進む際	プロペラ；輪軸のカバー、 エンジンの急停止	修理可能
2 same				
3				

VII. 各個の死傷者 (II に記載された機のうち、左の番号により VI に記載された機の中から確認せよ)

(a) 番号	(b) 隊群	(c) 氏名、階級または等級	(d) 原因	(e) 状況または状態
	なし			

VIII. 帰還機に関する巡航距離、燃料ならびに弾薬の資料

(a) 航空機型式	(b) マイル (往路)	(c) マイル (復路)	(d) 平均 滞空時間	(e) 平均 積載燃料	(f) 平均 消費燃料	(g) 消費弾薬総計				(h) 帰還機数
						.30	.50	20MM	MM	
F6F-5	245	220	4.1	400	280		50			4
F4U-1D	245	220	4.1	385	280		300			5
SB2C-4E	245	220	4.1	375	270			200		12
TBM-3	245	220	4.1	388	270		300			9

IX. 遭遇した敵対空砲火 (各行ごとの1区画をチェックせよ)

口径	なし	小	中	大
重度 - 時限信管付弾丸、75mm またはそれ以上		×		
中度 - 衝撃信管付弾丸、20mm ~ 50mm	×			
軽度 - 機関銃、6.5mm ~ 13.2mm	×			

X. わが機と敵機との性能比較 (左のチェック表を使用せよ)

遭遇せず

XI. 敵艦船または地上目標に対する攻撃 (II に記載されたわが機によるもの)

- (a) 目標と位置 工場、位置は不明 (b) 目標到達時刻 7時40分-8時10分 (区域)
(攻撃地域内の) すべての艦船に対して)
- (c) 目標上空の雲の状態 4000 ; 層雲 ; 0.7
(フィート、型と1/10範囲を基礎に)
- (d) 目標視界 霧で霞んでいた (e) 透視距離 4 - 6
(明白、ぼんやり、不完全、雲で薄暗かった、など) (マイル)
- (f) 爆撃方法 戦闘爆撃機隊、爆撃機隊は急降下。戦闘機隊、雷撃機隊は滑空 使用爆撃照準器 8型
(水平、滑空、または急降下) (型式)
- 1 飛行当たり投下爆弾数 全弾 間隔 爆弾投下高度 戦闘機隊、雷撃機隊は8000。爆撃機隊、戦闘爆撃機隊は3500
(数) (フィート)
- (g) 地上で攻撃した敵機数 : 破壊したもの なし 破壊と推定されたもの なし 損傷をあたえたもの なし

(h) 照準点	(i) 規模またはトン数	(j) 攻撃機数	(l) 各照準点に消費の爆弾、弾薬	(m) 照準点に対する命中数	(n) 与えた損害(なし、わずか、重大、破壊または沈没)
		(k) 隊群			
1 工場	1000フィートx 1500フィート	12	通常爆弾1000ポンド11発	4 確認	損害は不明
		第83爆撃機隊	通常爆弾250ポンド8発		
2 同上		2	通常爆弾1000ポンド2発	1	
		第83戦闘爆撃機隊			
3 同上		4	通常爆弾1000ポンド4発	不明	
		第83戦闘機隊			
4 同上		9	通常爆弾2000ポンド9発	4	
		第83雷撃機隊			
5 ダム	全長400フィート	3	通常爆弾1000ポンド3発	不明	
		第83戦闘爆撃機隊			
6					

- (o) 結果 : (目標艦船上で確認された全攻撃と、特に関心をもった地上目標について、上面または側面、または両面の図を作成せよ。その際、攻撃の方法と位置を明示せよ。全目標に対し、位置と攻撃結果を示して上記の番号と同一にせよ。必要ならば追加の用紙を使用せよ。)

攻撃目標の名称及び位置については不明である。

指示された攻撃目標及びすべての代替目標は完全に雲に閉じこめられていた。

上記の工場及びダムに対する攻撃は、曇り空のわずかな裂け目を通して見えた時に行われた。

そこは、東京の南西に位置する、富浜町であると思われる。

3機の戦闘爆撃機は、攻撃目標に対して爆弾を投下しなかった。

2機は爆弾を投棄し、1機は母艦に持ち帰った。

1機の戦闘爆撃機は、投下に失敗した。

一つの大きな爆発と1000フィートの高さまで登る黒い煙の渦を認めることができたが、損害の評価は不可能だった。

- (p) 写真は撮ったか? いいえ 損害の写真を撮った場合は、添付せよ。

XII. 戦術と作戦上の資料 (説明と意見。左のチェック表の適合する項目に従い、行動を詳述するとともに、意見を自由に書け。)

第83空母群

第83雷撃機隊のSTEWART少佐はエセックス、バターン、モントレーの飛行機部隊より構成されるこの攻撃部隊の指揮官だった。

当初の攻撃目標は川崎地域にある東京芝浦電気だった。

千葉半島の南の地点を通過し、そこから西に相模灘を進み、次いで北上して川崎の西の地点に出る、という接近方法が計画された。

東京湾上を水平飛行で侵入し、対空砲を避けながら東、もしくは南東へ退却し、勝浦の東5マイルに再結集する。接近した時、目標地域全体は厚い雲に覆われていたようだった。そこで、左に旋回し、雲の裂け目が見えた西方へ進んだ。

雲の裂け目から、川に沿って大きな工場があるのが見えた。

裂け目を通しての攻撃が指示され、全ての飛行機は工場または川を横切るようにしてある近接するダムに対して攻撃を行った。

工場地域に命中するのが認められ、一つの黒い煙が巻き上がるのに続いて爆発するのを、パイロットは退却しながら見た。

退却は相模灘方面へ行われ、そこで集合が行われた。

損害もなく終了した。

工場及び町の位置をはっきりと定めようと努めたがかなわなかった。しかし、そこは、北緯35° 37'、東経139° 00'に位置する、東京の南東にある小さな町、富浜であろうと思われる。

XIII. 実質的な資料 (左のチェック表に従って、行動や適合性について自由に意見を述べよ。必要ならば追加の用紙を使用せよ)

報告書作成

承認

予備海軍中尉		予備海軍中尉	海軍少佐
W. E. エステス	第83戦闘機隊 航空戦闘情報士官	W. A. サンプソン	第83戦闘機隊指揮官
予備海軍大尉		予備海軍大尉	予備海軍大尉
W. H. フーバー	第83戦闘爆撃機隊 航空戦闘情報士官	T. H. レイディ	第83戦闘爆撃機隊指揮官
予備海軍中尉		予備海軍大尉	予備海軍大尉
J. エシェリック	第83爆撃機隊 航空戦闘情報士官	J. T. クロフォード	第83爆撃機隊指揮官
予備海軍大尉		海軍少佐	海軍少佐
A. B. ハーマー	第83雷撃機隊 航空戦闘情報士官	H. A. スチュワート	第83雷撃機隊指揮官
予備海軍大尉		海軍司令官	海軍司令官
H. F. ベネット	第83空母隊 航空戦闘情報士官	H. T. ウター	第83飛行群